

大日向の春を満喫しました！

佐久穂町イェナプラン スクール設立準備新聞

第五号
発行元
一般財団法人佐久穂町
イェナプランスクール
設立準備財団

「春のがっこう」を
開催しました。

五月十三日に、イェナプラン教育体験プログラム「春のがっこう」を開催いたしました。四歳から小学校六年生までのお子様が一十八名、保護者の方が四十九名、スタッフを合わせて約百名が旧佐久東小学校の校舎に集まりました。校舎には、すっかり春がやっできており、ツツジや藤など色とりどりの花が咲き、長い冬が終わって芽吹き季節に参加者の皆さまにも実感していただくことができたとおもいます。スタッフも、佐久穂町の自然の豊かさを改めて感じる良い時間となりました。



また、今回の開催にあたり、大変多くの地域の方々にご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。今回、事前にお声がけさせていただいた地域の方に、「実際に行って、色んな人に会ってみないと分からないことがたくさんあるからお邪魔するわね」と言っていたいただきました。これからも、少しでも多くの方々との交流の場をつくっていただければと思っています。

「春のがっこう」の
テーマ

今回の「春のがっこう」のテーマは「めぐる一年」でした。冬が終わり、新しい季節のサイクルが始まる時に、どんなことが起きているのか、これからどんな実りがあるのか、体験的に学んでいこうという時間になりました。

当日は、午後から雨の予報。午前中には外で自然と戯れる予定だったので少々ドキドキしましたが、なん



とかお昼過ぎまではお天気もち、十分に外で活動することができました。

今回も、子どもプログラムと大人プログラムに分かれて活動し、それぞれに体験的に対話的な時間をお過ごしいただきました。子どもにとっても、大人にとっても、豊かで幸せな時間になっていたら嬉しいです。

それでは、少しずつではありますが、内容をご紹介させていただきます。と思いま



子どもプログラム
(午前の活動)

午前中、四歳から小学校二年生までのグループは、タンポポの絵本の読み聞かせを聞いたり、すでにスタッフが集めてきた草花を観察したりしてから、シャベルを持って校庭に出て行きました。そこで根っこはどこまで伸びているのか土を掘って調べたり、掘った土の中にいたカエルや虫を観察したりして過ごしました。子どもたちは私たちが想像していた以上に熱中して土を掘り、草花を集め、観察し絵を描きました。お昼休みもやりたい！という声も聞こえました。

三年生から六年生のグループは、大日向四区まで足を伸ばし、小須田武彌（たけや）さんのブルーン畑にお邪魔しました。今年は早目に咲いた花もほんの少し見ることができましたし、緑色の小さな実を観察する

こともできました。また、しいたけを採らせてもらい、初めての体験だった子どもも多く、みんなとても楽しんでいました。三年生から六年生も、草花やカエルを見つけ、思い思いに学校へ持ち帰りました。



子どもプログラム (午後の活動)

午後は、四歳から二年生までのグループは、採った草花の絵の続きを描いたり、ヨモギ団子を作ったりしました。時間の関係で、茹でるところはスタッフが

やりましたが、こねたり、形を作ったりは子どもたち

に体験してもらいました。三年生から六年生のグループは、午前中に体験したことや見てきたこと、気がついたことを、整理することと、伝え合うことをしました。その間に、もつと調べてみたいことが出てきた時には、図鑑や本を手にして調べたり、校庭に出て草木を集めたりする場面もみられました。探究の入口には立てたように思います。

十五時には、ランチルムに集まって、今日一日で感じたことや、気がついたことなどを発表しました。一人ひとりがマイクを持って、描いた絵や採ってきた草花を見せながら笑顔で話したり、緊張しつつもチャレンジしたりしてくれたことにとっても嬉しく思いました。

また元気にみなさんと大日向でお会いできることを楽しみにしています。



大人向けプログラム

午前の活動は、学校周辺の大日向地域の皆さまとの交流を目的とした、ヨモギ団子づくりとお茶会からスタートしました。

まずは、保護者の皆さま、地域の皆さま混合のグループとなり、それぞれテーブルに分かれてのヨモギ団子づくり。旧佐久東小学校の構内や周辺で採れたヨモギを、すりこぎですり潰して、米粉(佐久穂町産/「さくほーめん」と同じ原料)と水を混ぜ、こねていきます。

その後、こねた生地を丸めて団子状にして、茹でること五〜六分。皆さんで協力しながら、あつという間にヨモギ団子の完成です。この日の朝から学校のランチルームで炊いたあんこを添えて、お茶会の準備をしました。十一時を過ぎた頃から、地域の皆さまも続々と集まってくださり、保護者の皆さまとお茶会が始まりました。毎回、こうしたおしゃべりの時間はものすごく盛り上がります。地域

の自慢をされる方や、どんな地域なのかを聞く保護者の方が印象的でした。お忙しいなかお集まりいただいた地域の皆さま、本当にありがとうございました！



午後は、今回も佐久穂町役場の総合政策課の皆さま、さらには今年度から赴任された地域おこし協力隊の皆さまにお越しいただき、「さくほの暮らす」をテーマに佐久穂町の概要、子育て環境、仕事環境、住

環境などについてお話しいだきました。特に住まいについては保護者の皆さまから質問が多く飛び交っており、移住を真剣に考えてくださっている皆さまのためにも、私たちが引き続き情報収集に当たりたいと身が引き締まる思いでした。

間もあります。多くの時間は、参加者の皆さまと対話しながら、ご質問にお応えいたしました。「誰もが、豊かに、そして幸せに生きることのできる世界をつくる」ために、私たちはそれぞれの立場でどんなことができるのか？ そんなテーマを探究する時間を持たせていただくことができ、私共としても非常にありがたい時間となりました。

その後は、弊財団代表理事の中川と、理事の長尾より、イェナプラン教育が重視している基本的な考え方や、大日向小学校設立に向けての現在の準備状況をご説明いたしました。もちろんこちらからの説明の時



財団スタッフ紹介



理事 桑原 昌之

レーボールなどに親しみながら育ちました。

一九九〇年（平成二年）より二十八年間に渡り神奈川県にて教育の現場に従事。初任の県立高校では、保健体育科の教員、伊勢原市内の公立小学校では、教諭として環境教育や体育科教育

を始め二十一世紀の教育を見据えた実践をしてまいりました。また、伊勢原市教育委員会では研修指導主事として教職員の研修・研究、学校ICTの導入にも関わらせていただきました。

そんな中、二〇一〇年（平成二二年）、現在は弊財団の代表理事である中川、理事の長尾と出会い、文科省が進めていた「スポーツ熟議」を全国初開催。その後、二人と共に二〇一二年（平成二四年）夏、オランダで行われた研修に参加しまし

た。その後の実践に取り入れて数々の実践をしているうちに、設立者である中川や設立メンバーの麻とも出会い現在に至ります。まさか自分が公立小学校の教員を退職することになるとは思いもしませんでした。今まさに大日向にいます。

「日本初のイェナプランスクール」であることは間違いないですが、何よりも皆さまに愛されていた学校を地域の拠点になるよう頑張りたいと考えています。まずは地域のことを学ぶことからスタートしたいと思えます。大日向をはじめとする佐久穂町の方々にご協力いただきながらしっかりと開校準備を進めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

春のがっこう 写真館



ご協力いただきありがとうございました！

ジーバ共和国の皆さま・アンテナさくほの皆さま・千曲病院の看護師の皆さま
佐久穂町役場 総合政策課の皆さま・佐久穂町の皆さま

「夏のがっこう2018」を開催します。

皆さまのおかげで無事に「春のがっこう」を開催することができ、安堵しております。新緑の学校を子どもたちが駆け回る姿は本当に良いものですね。

さて、学校の設立準備も順調に進み、もうまもなく学校法人と小学校の設置認可申請をさせていただきます。校舎内のリフト・オーム工事も、もう少しすると始まります。

また、詳しいプログラム内容については今後企画をしてまいります。今年度の「夏のがっこう」は八月四日（土）に予定しております。夏の大日向で、今年はいったいどんな出会いが待っているのでしょうか。いまから楽しみでなりません。佐久穂町の皆さまにはまたまたお力をお借りすることが多く出てくるかと思いますが、ご協力のほど、何卒よろしくお願いたします。

【お問合せ】 佐久穂町イエナプランスクール設立準備財団 事務局
メール： info@sjsef.jp 公式ホームページ： <http://sjsef.jp>